

「人文社会系学術研究成果の海外発信」

西村清和（國學院大学）

日本学術会議・第22期第1部会哲学委員会「芸術と文化環境分科会」は、平成26年7月に「人文社会系学術研究成果の海外発信のためのプロジェクト」と題する提言案を作成した。提言の中心は「日本語人文社会系学術図書翻訳出版センター（仮称）」の創設にあるが、そのコンセプトは以下の通りである。

- ・国家プロジェクトとして日本語で書かれた人文社会系学術研究図書を恒常的に翻訳出版し、海外発信するために、「日本語人文社会系学術図書翻訳出版センター（仮称）」を創設する。
- ・翻訳出版する図書の選定にあたっては、人文社会系の様々な学協会と連携して、各分野ごとに選定委員会を設ける。
- ・選定委員会において、日本語で書かれた人文社会系の学術図書を毎年100冊をめぐり選定し、英語で翻訳出版する。
- ・翻訳は（英語圏の）外国人日本研究者、日本語ができる各分野にわたる（さしあたっては英語圏の）外国人留学生もしくは留学経験者、さらには英米語学文学、英米地域研究等を専門とする、あるいは英語圏での十分な留学経験を持つなどして、英語に堪能な日本人の大学院生やポスト・ドクに有償で依頼する（著者自身による翻訳も可とする）。
- ・翻訳出版事業に実績のある国際文化会館や東京大学出版会での聞き取り調査にもとづいて、翻訳料は一冊につき200万～300万円を見込み、エディターによるチェック（100～200万円）と、これに印刷・製本等の費用を加算して、一冊の本の出版に要する費用を概算で400～600万円とする。
- ・このプロジェクトの運営の中核に実績のある大学出版会をもっている大学のしかるべき研究組織のネットワークを想定し、翻訳・出版・流通にかかわる実務は「翻訳出版センター」の所轄のもと、外部の出版・流通を業務とする組織に委託する。
- ・海外の出版市場に本を流通させるのに必要なISBNとバーコードを必要を取得するべく、文部科学省管轄の海外事務所や国際交流基金の海外事務所等に「翻訳出版センター」の海外事務所を常設して流通のための事業を展開する。

しかし残念ながら、幹事会（とりわけ理系の委員）の反対にあつて「提言」として採択されることはなかった（学術会議ホームページ上で「記録」として公開）。その間の経緯を報告し、今後の展望を考えたい。